

今、特に長史蔡璟を遣わし、使者沈満志・差同の使者安遠路等と共に、共に表文一通を齎捧せしむ。及び義字号海船一隻に坐駕して馬一十五匹・硫黄二万斤を装載し、京に赴き進貢し、仍お礼部に赴き告稟して進収せしむる外、茲の諭遣を承くれれば、途に在りて遲滞して便ならざるを得しむる母れ。所有の符文は須らく出給に至るべき者なり。

今開す 赴京の

長史一員 蔡璟

使者三員 沈満志 南闈度 阿普実

通事一員 魏鑑

人伴二十一名

国王附搭の蘇木一万斤・胡椒一千斤

成化九年（一四七三）九月初三日

右の符文は長史蔡璟及び通事魏鑑等に付し、此れに准ぜしむ

進貢等の事 符文

注\*この入貢については『明実録』成化十年四月丙辰の条に関連の記事がある。

1-23-07

国王尚円の、謝恩のため正議大夫程鵬等を遣わす符文

（一四七四、九、三）

琉球国中山王尚円、見びに謝恩等の事の為にす。

今、特に正議大夫程鵬を遣わし、同差の長史李榮及び使者晏刺佳・安遠路等と、表文一通を齎捧せしむ。及び恭字号海船一隻に坐駕し、馬一十五匹・硫黄二万斤・鍍金銅結束螺鈿鞍鞞鞍刀四把・鍍金銅結束螺鈿鞍鞞鞍刀四把・胡椒一千斤・象牙二百斤、一十六条・束香五百斤・丁香二百斤を装載し、京に赴き謝恩し、仍お礼部に赴き告稟して進収せしむる外、茲の諭遣を承くれれば、途に在りて遲滞して便ならざるを得しむる母れ。所有の符文は須らく出給に至るべき者なり。

今開す 赴京の

正議大夫一員 程鵬

使者三員 晏刺佳 万濃 吉周丹

都通事一員 蔡齊

人伴二十一名

国王附搭の蘇木一万斤・胡椒一千斤

成化十年（一四七四）九月初三日

右の符文は正議大夫程鵬及び都通事蔡齊等に付し、此れに准ぜしむ

謝恩等の事 符文

注\*この入貢については『明実録』成化十一年三月己未、四月戊子の条に記事がある。

む  
謝恩等の事 符文

1-23-08

国王尚円の、謝恩のため長史李栄等を遣わす符文

(一四七四、九、三)

琉球国中山王尚円、見げんに謝恩等の事の為にす。

今、特に長史李栄を遣わし、同差の正議大夫程鵬及び使者安遠路等と、共に表文一通を齎しむ。及び寿字号海船一隻に坐駕し、馬一十五匹・硫黄二万斤を装載し、京に赴き謝恩し、仍お礼部に赴き告稟して進収せしむる外、茲の論遣を承くれば、途に在りて遲滞して便ならざるを得しむる母れ。所有の符文は須らく出給に至るべき者なり。

1-23-09

国王尚円の、謝恩のため長史梁応等を遣わす符文

(一四七五、八、二六)

琉球国中山王尚円、見げんに謝恩等の事の為にす。

今、特に長史梁応を遣わし、同差の使者亞蘇及び達魯等と、表文一通を齎捧せしむ。及び勝字号海船一隻に坐駕し、馬一十五匹・硫黄二万斤及び鍍金銅結束黒漆沙魚皮靶螺鈿鞍腰刀四把・鍍金銅結束螺鈿靶鞍套刀四把・丁香二百斤・象牙二百斤・檀香二百斤・束香三百斤・胡椒一千斤を装載し、京に赴き謝恩し、仍お礼部に赴き告稟して進収せしむる外、茲の論遣を承くれば、途に在りて遲滞して便ならざるを得しむる母れ。所有の符文は須らく出給に至るべき者なり。

今開ひらす 赴京の

長史一員 李栄

使者三員 安遠路 南闍度 泰羅

通事一員 林英

人伴二十一名

国王附搭の蘇木一万斤・胡椒一千斤

成化十年(一四七四)九月初三日

右の符文は長史李栄及び通事林英等に付し、此れに准ぜし

今開ひらす 赴京の

長史一員 梁応

使者三員 達魯 夏佳美 匡嘉比